
開催にあたって

2001年はインスリン発見80周年の年にあたります。その年にわが国で初めて超速効型アナログインスリンの臨床応用が始まることには、なにかしら因縁めいたものを感じます。インスリンの発見から、製剤の改良、デバイスの改良、そして今ではインスリン治療と切っても切り離せない関係となった血糖自己測定関連器材の進歩など、患者さんのQOL 改善のための努力は多くの成果を生んできました。

『さらに快適に、さらに健康に』を目指して今後も素晴らしい研究が推進されていくことと思います。IT を応用して患者さんの情報をいち早く収集し、正しい患者指導としてフィードバックすることなどもその一つでしょう。最新のモニターとこのようなシステムがリンクすれば、インスリン治療の姿も大きく変貌すると考えられます。

そんな成果を『より早く、より正確に、より広く伝えたい』、そして『患者さんの希望を研究・開発の第一線に直に伝えたい』、これが先進インスリン療法研究会の目的です。

過去5年間にわたり CSII を中心テーマとして開催され、マニュアルの作成や健康保険給付拡大など一定の成果を上げてきたインスリンポンプ治療研究会を発展的に改めました。このたびの研究会においても、ご参加の皆様の方に活発なご討論を期待しております。

最後に、本会の企画運営にあたってご支援・ご指導を賜りました、関係各位に心より御礼申し上げます。

第1回先進インスリン療法研究会 当番世話人
兵庫医科大学総合内科糖尿病部門

難波 光義
